

13.09.28~29 ハヶ岳山行報告

C1 北村 駿

① 参加メンバー（敬称略）

M3 荒川 M2 田中 C1 北村 （計3名）

② コースタイム

1日目

八王子駅 06:35~09:24 茅野駅 09:35~10:12 美濃戸口 10:30~11:20 美濃戸山荘 11:25~13:35 行者小屋（幕営） 14:05~15:25 阿弥陀岳山頂 15:35~16:35 行者小屋

2日目

行者小屋 05:30~07:15 赤岳山頂 07:35~08:55 横岳 09:05~10:10 硫黄岳 10:35~12:10 赤沢鉱泉 12:20~13:00 行者小屋（テント撤収） 13:30~15:35 美濃戸口 16:30~17:15 茅野駅 17:36 発

③本文 1日目 八王子駅から茅野駅まで普通列車で移動。約3時間電車でゆっくり移動するのもなかなか味わい深いように感じた。茅野駅からバスで美濃戸口まで移動。ハヶ岳登山にふさわしい季節であることもあって、バスは登山客で満席となっていた。美濃戸口から美濃戸山荘までは車も通れるようなほぼ平坦な砂利道を歩





く。車で入って行って山荘付近の駐車場に駐車してそこから登山を始める人も多いようである。山荘の先からは南沢ルートを選び本格的な山道へと変化。美濃戸山荘から行者小屋までの道のりは、傾斜はそれほどでもないが足元が意外と悪く神経を使いながら登ることとなった。想像以上に体力を必要としたように感じる。気温はそれほど低くなく、半袖 1 枚で登れるほどであった。行者小屋でテント設営。私は先輩 2 人をほぼ傍観しているだけという形になってしまった。その後時間に比較的余裕があったため阿弥陀岳山頂を目指す。わりと傾斜のある登りが続き、登ること 1 時間 20 分ほどで山頂に到着。山頂から富士山の姿もはっきりと確認できた。その後 1 時間足らずで一気に行者小屋まで下りテントへと戻る。小屋からは赤岳、横岳の山肌にモルゲンロートならぬアーベントロートが見事なまでに映し出されていた。朝から晩まで晴れ渡ったこの日の天候に感謝せねばならないだろう。小屋の多くの人とともにこの壮観を楽しむことができた。ここで夕食。田中さんにトマトリゾットをメインとしてボリュームのある夕食を作っていただいた。昼間晴れ渡った分放射冷却で夜はかなり冷え込み、翌朝もかなり寒いことが予想された。夕食後翌日に備え 19 時半頃就寝。

2 日目

4 時起床。外はやはりかなり冷えていて、シュラフカバーは結構濡れていた。朝食は田中さんによるミートソーススパゲッティ。朝食を済ませ、赤岳へ向けて 5 時半に行者小屋を出発。はしごや階段の多い山道を登る。



途中北アルプスの山を眺めることができた。岩場を登っていき、クサリ場もクリアして赤岳山頂に到着。山頂付近はやはり他の登山客も多く混雑していた。休憩後横岳へと向かう。いったん急なガレ場を歩いて落石に注意しながら慎重に下り、赤岳展望荘を通過して山頂を目指して再び登る。クサリ場をいくつか越えてまもなく山頂に到着。このころになると気温はかなり上昇し防寒着がいらなくなるほどとなっていた。



山頂直後は片側が断崖絶壁になっているような慎重さを要する岩場であったが、その後は緩やかな稜線が続き、それほど体力を使わずに歩いていく。最後はケルンをたどりながら 10 分ほど登り、硫黄岳付近に到達。せっかくなので爆裂火口壁に沿って歩けるところ





まで歩き、しばし休息。穏やかに吹く風が心地よかった。長めの休憩後行者小屋へ向け下山を開始。長い間見えていた北アルプスにも別れを告げ、次第に樹林帯へと入っていく。しばらくの間下り続け、いったん赤岳鉱泉で小休止。赤岳鉱泉から行者小屋に向かうには若干登り返さなければならないのが少しつらかった。

しかし思ったほど時間かからずして行者小屋に到着。結露した水がうまく蒸発せずテントの底に溜まってしまっていた。テントを撤収し、美濃戸口へ足を進める。下りである分行きに比べればずっと楽になった。美濃戸山荘も通過しあとは平坦な道を歩き続けるだけというところで思わぬ出来事が。1組の夫婦が私たち3人を途中から車に乗せていってくださったのである。そのご夫婦はどうやら日帰りで赤岳をピストンしてきたようだ。バス停付近で降ろしていただいたが、これにより思いがけず最終バスの時刻まで時間が余ったため風呂に入ることができた。感謝、感謝である。

今回の山行はなんといっても天候に恵まれた。2日間朝から晩までほとんど常に快晴となり、周辺の山々も明瞭に眺めることができた。変わりやすい山の気候のことを考えると非常に幸運であったように思う。南八ヶ岳山域の山々を満喫できた山行であった。



↑あちらこちらの階段にはマヌートの絵が